令和４年度岩手県二戸保健所運営協議会　会議概要

１　開催日時
令和５年２月６日（月）18：30～20：00
２　開催場所
二戸地区合同庁舎　１階大会議室
３　出席者
【委員】
藤原淳委員（二戸市長）
山本賢一委員（軽米町長）
晴山裕康委員（九戸村長）
小野寺美登委員（一戸町長）
菅原光宏委員（二戸医師会長）
森川伸彦委員（二戸歯科医師会長）
渡邊幸弘委員代理（二戸薬剤師会副会長）
坂野上裕子委員（岩手県看護協会二戸支部副支部長）
鈴木清志委員代理（岩手県立二戸病院事務局長）
佐々木由佳委員（岩手県立一戸病院長）
葛西敏史委員（岩手県立軽米病院長）
山口金男委員（二戸地区社会福祉協議会連合会長）
白木澤敏行委員代理（一戸町立小中学校長会事務局）
清川セイ子委員（岩手県食生活改善推進員団体連絡協議会二戸支部長）
十文字英之委員（二戸地区広域行政事務組合消防本部消防長）
【オブザーバー】
生内雅史氏（二戸市健康福祉部副部長兼健康福祉企画課長）
工藤薫氏（軽米町健康福祉課総括課長）
浅水渉氏（九戸村保健福祉課長）
野﨑貞治氏（一戸町健康子ども課長）
【事務局】
森谷保健所長、菊池次長、佐々木管理課長、梅木福祉課長、菊田保健課長、高橋環境衛生課長ほか保健所職員１名
事務局から、二戸市薬剤師会長金澤悟委員の代理の渡邊副会長、県立二戸病院長小笠原敏浩委員の代理の鈴木事務局長、一戸町立小中学校長会事務局吉田武雄委員の代理の白木澤校長の出席及び、３名の委員の欠席を説明。
会長・副会長選出は自薦・他薦を募ったがなかったため、センター側から、従来どおり会長を二戸市長、副会長を岩手県立二戸病院長とする案を提示し承認を得る。
４　傍聴者
なし
５　主催者あいさつ
＜森谷保健所長＞
本日はご多用のところ、二戸保健所運営協議会にご出席いただきありがとうございます。
また、委員の皆さまには、保健・医療・福祉行政の推進について、日頃から、格別のご協力・ご支援を賜り、深く感謝申し上げます。
特に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止、そして地域住民につきましては、尽力いただきまして大変ありがとうございます。
当協議会は、地域保健法に基づき設置しており、地域の医療関係団体、行政機関、社会福祉施設等の関係者の皆様に、管内の地域保健及び保健所の運営に関する事項についてご協議いただく場でとし

て開催しております。

本日の会議は、当保健所の令和４年度事業の実施状況を説明した後、個別テーマとして「新型コロナウイルス感染症対応」と「環境を守り育てる人材育成事業について」ご説明させていただきます。

当協議会でいただくご意見等は、今後の保健所運営に生かして参りたいと存じますので、委員の皆様からの忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、開催に当たっての挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

６　議事

事務局から、保健所運営協議会条例第４条第２項の規定により会長である藤原委員を進行役に選出し依頼した。

（1）令和４年度の岩手県二戸保健所業務概要について

＜事務局による説明＞

＜質疑＞

（森川委員）

男女の出会いの場づくりの事業に関しての概要について説明願います。

（梅木福祉課長）

11 月に実施した男女の出会いの場づくりの事業は、大野キャンパスへ行き木工作りを行ったり、バスの中でマナー研修を行いながら、カップリングをするという内容でした。

その後にアンケートをとりましたところ好評だったことから、２月 26 日に二戸で同様の事業を実施実施する予定です。

（森川委員）

事業を実施したはいいが、その後の対応が一番大事であり、例えば、事業予算に余裕があれば、商工会議所や青年会議所に依頼すると、協力いただけるのではないかと思います。

この地域は、40、50 代の未婚率が高いこともあるので、こういう事業をやっていけば少しずつ明るくなっていくのではないかと思ってます。

婚姻関係をつくり子どもの出生率を上げるということが喫緊だと思っていますので、力を入れてやっていただければとの要望です。よろしくお願いします。

（菊池次長）

貴重なご意見ありがとうございます。今お話しいただいた商工会議所の方々、そういった団体にも協力を呼び掛けたいと思っておりますし、コロナ前には色々活動されてたとお聞きしておりますので、そういったことを意識しながら、実際にカップルになって、あとお子さんという流れになれば、市町村のほうで補助メニュー等ご準備いただいていると思いますので、そういったところも連携しながら進めてまいりたいと思っております。

（2）新型コロナウイルス感染症対応について

＜事務局による説明＞

＜質疑＞

（菅原委員）

９月から全数把握の見直しがおこなわれ、基本的には 65 歳以上や基礎疾患のある方は病院からの届出、それ以外は当日の日次報告ということで人数だけの報告に代わりましたが、実際の感染者数と保健所の把握できた数、報告の数があっていたかどうか、例えば、医療機関、診療機関から５人ずつ、発生届、日次報告と人数だけの報告がでましたということに対して、感染者がマイハーシスに届け出なければ、把握のしようがない場合があるので、その数に乖離があったかどうか、また、医療機関側がきちんと日次報告をしていたかどうかその２点についてお聞きしたいのでお願いします。

（森谷保健所長）

その数に関し、65 歳以上については必ず発生届はあります。64 歳以下の報告は今はいりません。陽性者数は 10 歳刻みですので 70 歳以上でみた場合にきちんと数が合うかどうか、職員に数を確認させており、二戸保健所管内については大きな違いはありません。ただし管内の住民が、例えば、岩手町で受

診された場合などは県央保健所管内の陽性者数としてカウントされますので、若干の誤差は生じます。
菅原先生が話されたことは全国的には大きな問題となっております。届出た数とその実際の陽性者数に大きな開きがあるのではないかということで、都道府県で確認するよう国からの指示がでておりますので、それについては県庁で、確認作業してきちんと厚労省に報告しています。
当管内ではそういう指示の前に、きちんと職員が確認をしてくれて、そんなに大きな間違いはないということを私も把握しております。
（菅原委員）
若い方も比較的マイハーシスで登録されてるという理解してよろしかったでしょうか。
（森谷保健所長）
岩手県内の若い人がどうなのか確実なところはわかり兼ねますが、他の都市部では、未登録の方がやはりいらっしゃる。そのあたりの把握をきちんとやっている東京、大阪は、どれくらいの方が実際、未登録なのかというと、おおよそ 10%から 20%くらいの方はいるのではないかということを聞いております。ただ、岩手県の場合はそこまでは調べていないです。
（菅原委員）
２点目の、医療機関からの登録はきちんとされていたかどうかというのをお伺いします。
（森谷保健所長）
管内の先生方には本当にご協力いただいており、保健所のほうから作成したチラシについても、先生方が陽性者の方にお渡しして、きちんと指導もしていただいておりますので、それに関しては保健所では心配しておりませんでした。
（菅原委員）
ありがとうございます。
（山本委員）
新型コロナワクチンの効果については、重症化を予防することがすごいと思っています。
住民の方にもワクチンを接種していただきたいと思いますが、副反応があって若い人の接種率が低くなっている。そこで、ワクチン接種に関して副反応がどれくらいでてるか、どのような副反応があるのか教えていただきたい。
５月８日から２類から５類になるということで、ワクチン接種は今後どういう状況で進むのか、そのことも伺いたい。
（森谷保健所長）
ワクチン接種の副反応については、もしかしたら調べているかもしれませんが、保健所のほうでは把握しきれておりませんでした。大変失礼いたしました。
今後ですが、今回の保健所の対応、医療機関の対応やワクチン接種について今後の対応は、都道府県や市町村、医療機関など、現在、意見を伺っているところですので、今後の内容がでてくるのは３月上旬頃に示されると思っております。
（山本委員）
新型コロナウイルス感染とインフルエンザ感染との因果関係というものはあるのでしょうか。
（森谷保健所長）
それは、一方のウイルスが流行すると、もう一方のウイルスはそんなに流行しないということが実際に言われているところで、県内での同時感染は把握しておりませんが、実際、同時感染は、ほかのところではあると聞いております。
マクロでいうと、例えば、沖縄はコロナが爆発的に流行して、今の第８波は、コロナは流行していませんが、インフルエンザはすごい流行しているようなことがありますので、コロナが流行しないところでインフルが流行するということはあります。
（山本委員）
ありがとうございました。
（葛西委員）
新型コロナウイルスは、一回ウイルスが入ってきましたら、瞬く間にクラスターになります。

そうなると病棟はロックダウン、入退院は延期、救急の入院受け入れもなしとし、管内の病院に協力をいただいたときがありました。集団免疫についても確認しました。一番困るのがスタッフが濃厚接触者になったり、罹って症状が軽くても10日間休むということでした。５類になってよいのは、インフルエンザのように、例えば５日間の休みというのがあるかもしれませんが、濃厚接触者という概念がなくなるので、具合が悪くなく、症状がなければ働けるということで、院内で発生した際にもロックダウンしなくてよいと考えます。

（佐々木委員）

当初予想しておりましたのが、精神疾患を合併したコロナ患者を受ける病院ということで、どのくらいの患者がいるかということです。

実際に８月にクラスターになり、スタッフ自身も過酷な環境でした。こういうことを経験したので、どんなものが外からきても看ることができる、精神科病棟にゾーニングということで、きちんと、感染のエリア、そうではないエリア、中間のエリアを分けて看ることができたことから病院自体に力がついたと考えています。

副反応の話が出ましたが、医師不足の問題もありますが対応してるのは一人の内科医師です。その先生が、１回目、２回目ワクチン接種で職員の副反応の統計をとりまして、一番多かったのが発熱で、高い割合で副反応が出てました。

このコロナに関してはおそらく、もう少し時間がたつと、色々なデータで色々な病院から解析が進むと思いますので、当院のクラスターの結果も、一つのデータになるのではないかと思います。

（山口委員）

私どもの事業所ではデイサービスと訪問介護の事業をやっていますが、感染者がありました。例えば、訪問介護であれば家を訪ねますが、そこにヘルパーが行って、感染者がいることを知らないで感染したとか、デイサービスだと高齢の方が来て利用して、１人でも感染していれば職員に感染するということで、保健所の指導で休止ということですが、今回のコロナに関して、コロナが怖いから訪問介護しない、デイサービスの事業停止するというのが、非常に住民の方に不安を与えます。

特にデイサービスに通っている人達は人数が多いですから、いつ開けるのか、早くしてほしいと言うこと、訪問介護でもそういう要望があります。

今回、私側から一番困ったのは、コロナに感染した人を犯罪者のように批判することです。誰が罹っても不思議ではないのに、周りの人が「あそこの誰々や、あそこのヘルパーが罹った」などと話しています。そこで保健所にお願いですが、あまり感染者を犯罪扱いしないようなコマーシャルをしてほしいです。誰も感染したくて感染してる訳ではないです。幸い、重傷者もいなくて、全員、5日から１週間で職場復帰しましたが、今後、コロナの対策とか、これからあるであろう様々の新しいウイルスが出たとき、保健所では新たな感染者の発表ということではなく誰でも感染しうるということを表に出してほしいというのが私からの要望です。

（3）環境を守り育てる人材育成事業について

＜事務局による説明＞

＜質疑＞

（森川委員）

環境でも育てる人材育成は大事であり良いと思いますが、一方では、廃棄物を不法投棄していたことに関し、許認可がうまくいっていなかったという事実について、行政関係者は反省すべきと思います。この許認可が疎かになってしまうと、それをすりぬけて不法投棄していく輩がいるのだから、これからはもっと、目を光らせていかなければならないと思っている状況です。

もちろん、市民もみていく必要はあるのですが、行政関係者には、書類や実地も見ていただいて、今後はこんなことの無いようにお願いしたいという要望です。

（4）その他

（佐々木委員）

資料１の内容ですが、特に、高齢者、認知症、自殺に係わることですが、この地域は、先般、保健所のほうから説明ありましたが、高齢者の県全体の割合のなか比較すると、高齢者 70 歳以上の女性

の自殺死亡率はとても高い。その代わり 40～50 代の自殺者がどちらかというとクローズアップされがちですが、若い方の 20 歳以下の自殺はゼロである。ずいぶん県内でも地域差があると認識しております。そこで、高齢者が県全体に比べて３倍高いという事実がありましたので、ぜひ介護保険、高齢者福祉、生活支援の担当者とも連携してほしいと思います。また、健康問題が原因になっている訳ですが、これは、自分が弱ったために家族に迷惑をかけるのではないか、弱ったためにこれまで受診していたのが行けなくなるとかでストップしないで、家族やそれぞれの担当する課で対策をしておかないと、減らないのではないかと思います。当院も入院含めて在宅支援に協力したいと思いますし、それぞれの部署で協力していけるような、そういうメニューや県で今まで取り組んでいるゲートキーパー、高齢者に対する自殺対策をもう少し具体的な手段、展開していただけたらいいのではないかと思いますので、よろしくお願いします。

（森谷保健所長）

二戸地域自殺対策推進協議会を12月に開催させていただいたとき、管内の自殺率が高いのは高齢者、男性も女性も高く、女性の方が県平均と比較しても高いということでした。今までは自殺対策ネットワーク連絡会を年に５、６回開催していた時期もありましたがコロナでそれができておりませんでした。

今後、コロナが落ち着いて、自殺対策ネットワーク連絡会を開催し、課題について、具体的に対策を検討していきたいと考えています。

（葛西委員）

自殺対策について、一時は久慈管内が県内で自殺死亡率が一位のときがありましたが、久慈が対策などうまくいって、二戸管内が県内で一位になっていますが、久慈との情報共有や成功事案はご存じでしょうか。

（菊田保健課長）

久慈地域では自殺死亡率が高い状況でしたので、一つだけの対策ではなく、久慈モデルと言うネットワーク連携をはじめ、一次予防として住民の方への普及啓発、二次予防としてハイリスク者、自殺未遂された方への支援心の健康課題をもっている方への支援、三次予防として遺族の方への支援、働きざかりの方への支援、それから精神疾患をもっている方への支援など、六つの対策を包括的に進めていきながら自殺対策を県内各地でやっている状況です。

二戸管内では、自殺死亡率が県内において高い状況がずっと続いており、事業の実施、ケア会議を開催したりとか、関係機関、市町村と連携しています。平成24年度からは、岩手県の精神保健福祉センターにおいて、一戸病院、救急の基幹病院となっている二戸病院、軽米病院に搬送された方についての連絡調整や支援を立ち上げ、現在、センターの職員が一戸病院に出向き、支援に同意をされた方に支援~~を~~していますし、保健所も市町村の保健師とも連携し、一人ひとり支援をしている状況です。

久慈保健所では、ネットワーク連絡会を月１回開催しており、当所もネットワーク連絡会で課題を話し合いながら、今後に向けて何が必要か、これまでの対策だけではない、何かできないかということを、検討していきたいと思っております。

（葛西委員）

ありがとうございました。

（藤原会長）

コロナ、自殺対策、医師不足、県境産廃など、一つ一つ挙げれば、課題が多く残っているところでございます。

各団体のみなさん、あるいは各市町村が連携を図りながら、カシオペア地域が住みやすい地域になるよう、これからのみなさんの力をお借りしながら取り組んでいく必要があると感じたところでございます。他になければ、これで議事を終了させていただきます。皆さん、ありがとうございました。

7　閉会